



てん

慶2年（西暦939年）、初代唐
沢山城主藤原秀郷公が、河内の国

（現大阪）から5人の鋳物師を佐野に移り住ませたことから始まったという逸話が残る天命（天明）鋳物。戦国時代には、千利休や織田信長など、歴史に名を連ねる茶人や武将たちに愛用され、明治時代になると梵鐘、仏像、釜、鍋などの日常用具が鋳造されました。

そして令和となり、自身の作品を製作する傍ら、何百年も前に作られた天命釜に新しい命を吹き込む若き鋳物師がいます。

「那覇市にある窯元で5年間ろくろを挽き、ものづくりの楽しさを、そして、その後8年間は京都の伏見で茶の湯釜の製作と、時代と釜に合わせた修理を学ばせてもらいました」美延さんのこの言葉からは、今まで関わった全ての人々への

新しい命を吹き込む若き鋳物師

キラリ話題の人

若林 美延さん
若林鋳造所6代目

感謝の気持ちが伝わってきました。

2021年に生まれ育った佐野に戻り、千利休、孫の千宗旦由来の茶釜を修理する機会に恵まれたとき「この釜を無事に修理し、納めることができたらきつと自信につながる」「この釜が四百年前に作られ、またこれから何百年も使われることを想像すると、預かりものを扱うようだ」という思いで作業に当たったそうです。

鋳造所で釜と向き合う時間は、心が無になりあつと言う間に流れるという美延さんは「沖縄、京都、佐野での経験を生かした作品作りや修理を通して、ご先祖さまや鋳物職人がつないでくれた生産用具や作品を後世に伝えることができたらいいですね」と、笑顔で話してくださいました。

努力を惜しまず「天命鋳物」と向き合う美延さんの今後の活躍に注目したいです。

（市民記者 中里聖子）



▲文化財的価値の高い大甕（おおごしき）の前で



▲阿弥陀堂鳥居銀付 美延さん作（あみだどうとりいかんつき）

ようこそ 市長室からこんにちは！

先月は残暑厳しく30度を超える日も多くありました。この後も例年に比べると気温が高くなる予報も出ておりますので、引き続き体調に気を付けてお過ごしください。

さて、今月は「奥佐野」の話題について少しお話ししたいと思います。

市北部の中山間地域を「奥佐野」と呼び、市外県外から人を呼べる新たな観光ルートとして確立できるよう取り組みを進めておりますが、そうした中で、現在、奥佐野で「佐野市むらづくりそばスタンプラリー」を実施しております。各地区のむらづくり団体が運営している農村レストラン4カ所を巡るスタンプラリーとなっております。4つのスタンプを全て集めると、抽選で市産のイチゴをはじめとする農産物や直売所などで使える利用券がもらえます。

秋に見られる奥佐野の紅葉はとても素晴らしいです。直接足

をお運びいただき、そばの食べ比べを楽しみつつ、道のりにある景色や観光施設などにも楽しみを広げていただくことで、住んでいる佐野市の魅力に改めてお気付きいただけるのではないのでしょうか。身近な場所での再発見をぜひ楽しんでみてください。

10月は台風が多くなる季節です。市民の皆さまの生命・財産を守るため、行政としてできることは、確実にまいりますので、市民の皆さまも、防災備蓄品の準備・確認を行うとともに、ハザードマップで災害危険箇所や避難経路を確認するなど、災害への備えをお願いいたします。



佐野市長 金子 裕





①



②

佐野市の誇る偉人

田中正造翁111回忌法要

9月4日(月)、佐野市の誇る偉人「田中正造翁」の法要が、春日岡山惣宗寺において、厳かに執り行われました。

今回はコロナ禍における行動制限が緩和されたこともあり、4年ぶりにたくさんの方々が出席された法要となりました。

今盛んにいわれている”SDGs”“さながらの環境問題に、1世紀以上も前の時代に力を尽くした彼の偉業は、まさに佐野市民の誇りといえるでしょう。

「真の文明は山を荒らさず、川を荒らさず、村を破らず、人を殺さざるべし」

この正造翁の言葉は、これからも名言として、事あるごとに人々に語り継がれていくことでしょう。

法要の後で、市郷土博物館の前館長である茂木克美さんによる「佐野の近代化と田中正造」と題した、ご講演を拝聴しました。短時間でのお話でしたが、正造翁の偉大さと、彼の人となりがよく分かりました。

(市民記者 葛貫郁子)

①法要の様子

②正造翁の墓

第31回

さの秀郷まつり

9月16日(土)、市役所周辺で4年ぶりに「さの秀郷まつり」が開催されました！

さの秀郷太鼓保存会の皆さんによる和太鼓演奏で幕を開け、佐野ブランド大使DOTAMAさんのライブで午前中から大いに盛り上がりを見せていました。

午後は新たな企画である「ちびっこさのまる音頭」で、小さなお子さんも参加し、さのまると佐野ブランド姫の福士奈央さんと一緒に、さのまる音頭を楽しく踊っていました。

そして、恒例の市民総おどり、みこし・おはやし巡行で会場内のボルテージは最高潮に！

ファイナーレは、市役所の建物をスクリーンとして映し出したプロジェクションマッピング！藤原秀郷公の「大百足退治」物語を現代に蘇らせました。

